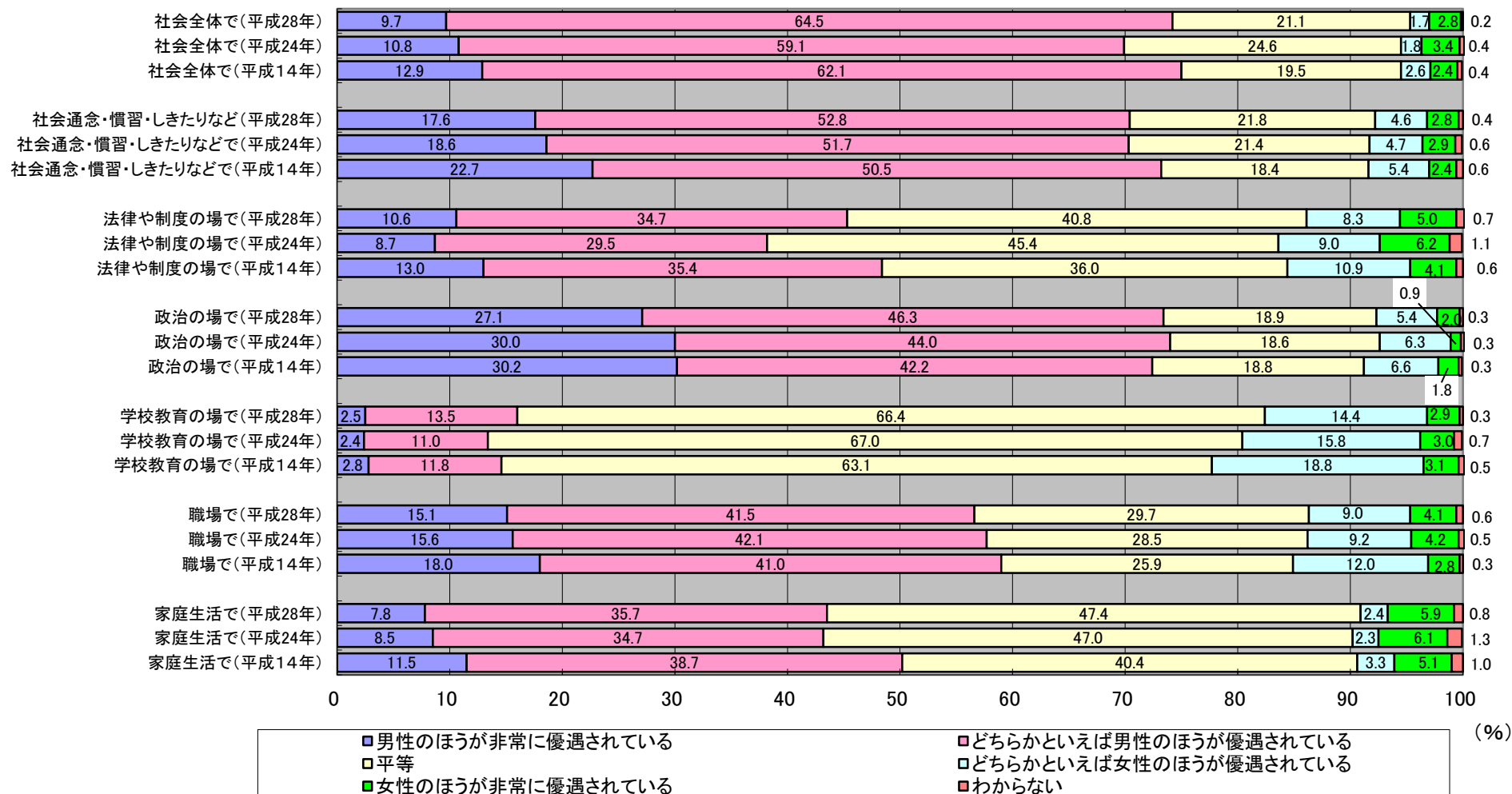


男女の地位の不平等感についての意識(全国・男女計)

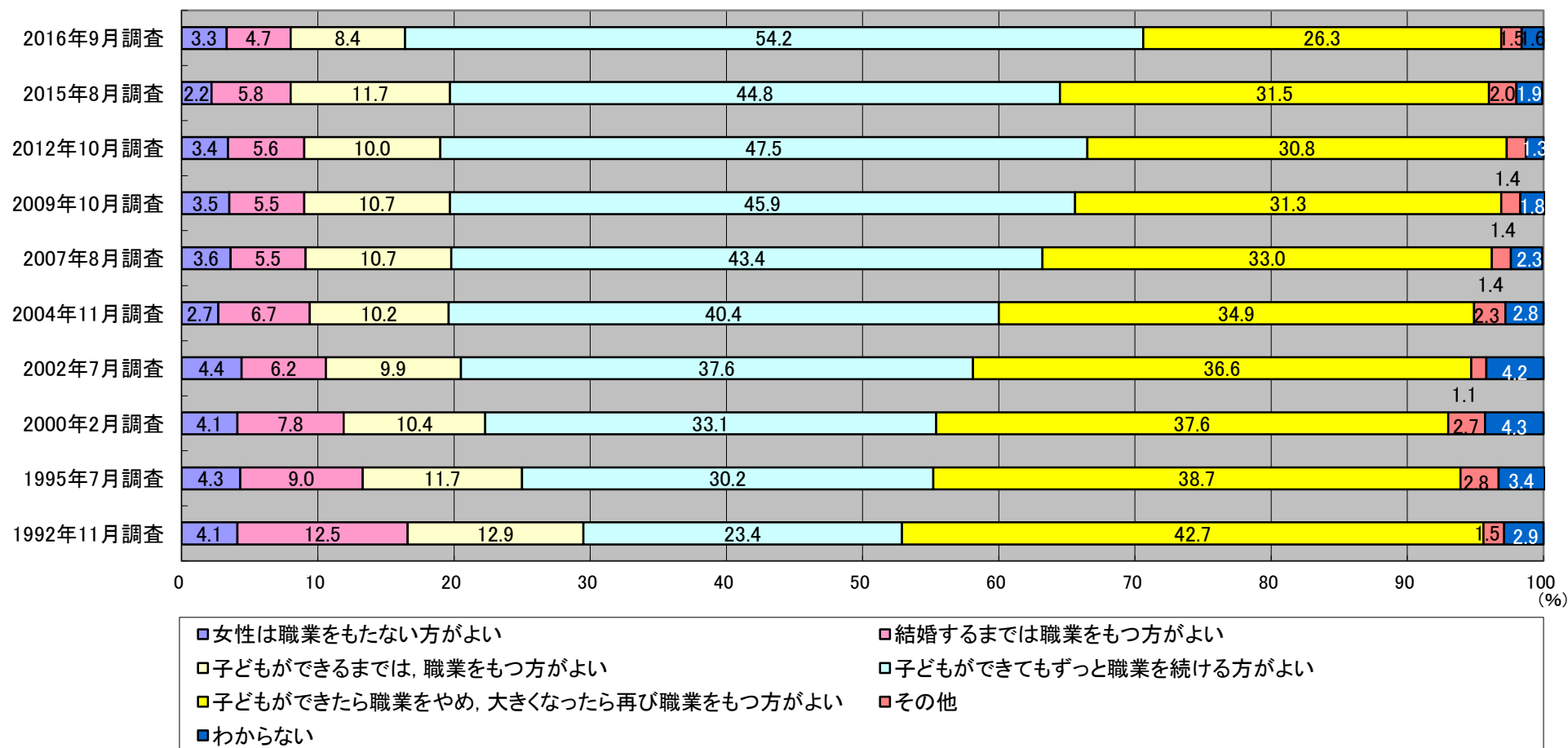
「男性のほうが優遇されている」と考える人の割合は、減少しているものの依然として高い。また「社会全体」と法律や制度の場においては、24年と比べ28年の割合が増えている。



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」による。平成14年は7月、平成24年は10月、平成28年は9月調査。

女性が職業を持つことへの意識(全国・男女計)

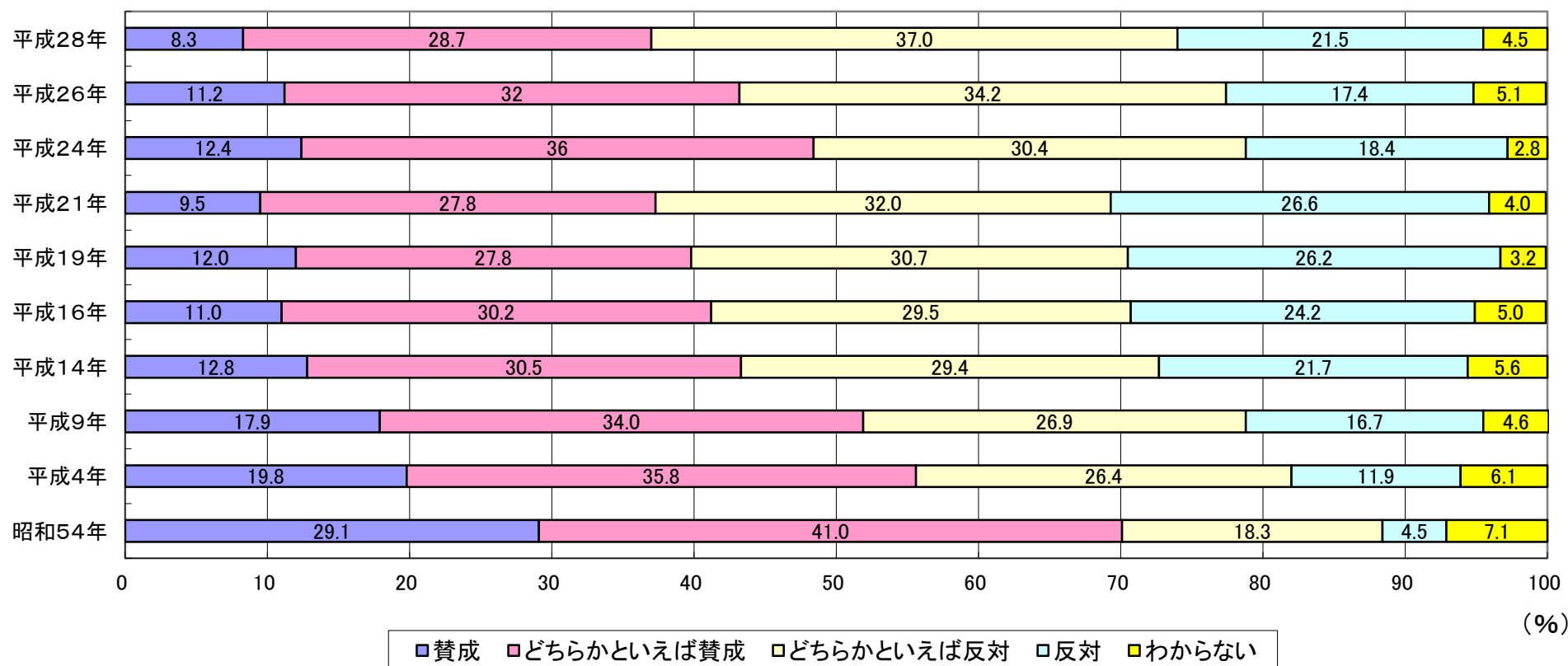
「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」と考える人の割合が上昇する傾向が続き、2016年の調査で初めて50%を超えた。



資料：内閣府「男女共同参画に関する世論調査(1992～2012,2016)」、「女性の活躍に関する世論調査(2015)」による。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考え方への意識(女性):全国

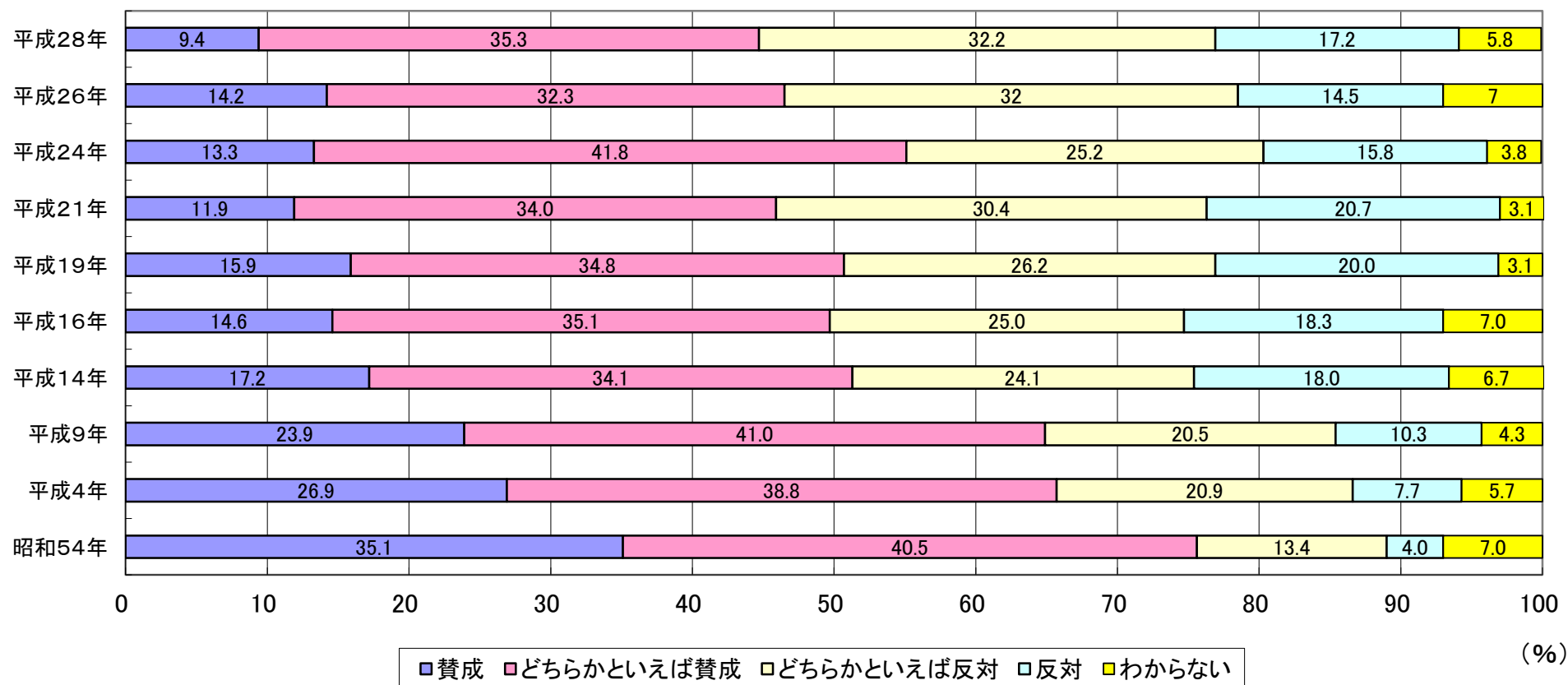
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考え方について、女性のうち、「賛成」・「どちらかといえば賛成」と考える人の割合は年々減少傾向が続いていたものの、平成24年の調査で初めて増加に転じたが、その後の調査では再び減少している。



資料: 内閣府「男女共同参画に関する世論調査(1992～2012、2016)」、「女性の活躍に関する世論調査(2015)」による。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考え方への意識(男性):全国

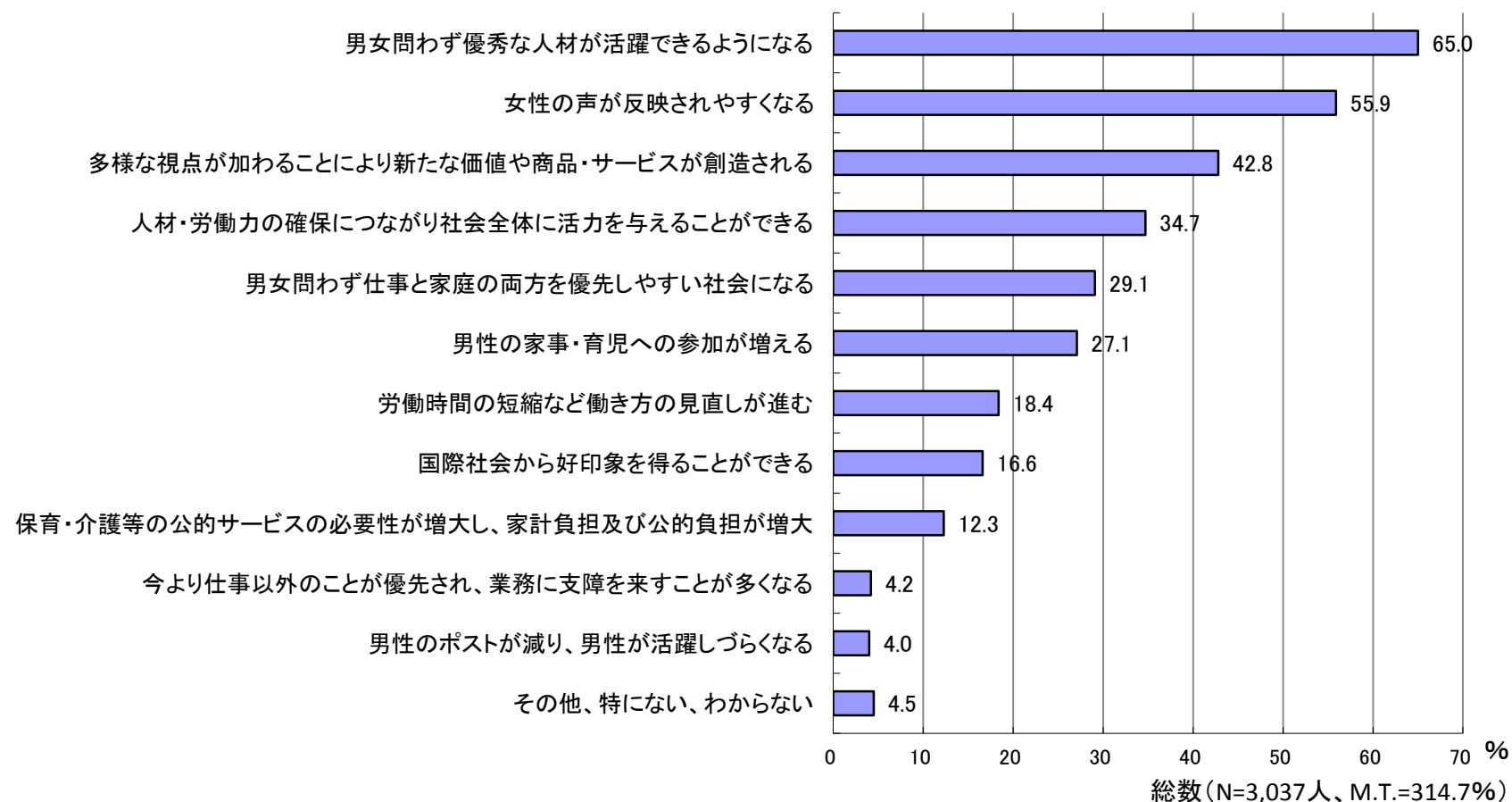
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考え方について、男性のうち、「賛成」・「どちらかといえば賛成」と考える人の割合は平成9年調査時よりは減少し平成14年以降はほぼ横ばい状態が続いていたものの、平成24年の調査では増加に転じたが、その後の調査では再び減少している。



資料:内閣府「男女共同参画に関する世論調査(1992～2012、2016)」、「女性の活躍に関する世論調査(2015)」による。

女性の活躍が進んだ時の社会・組織等の姿(全国)

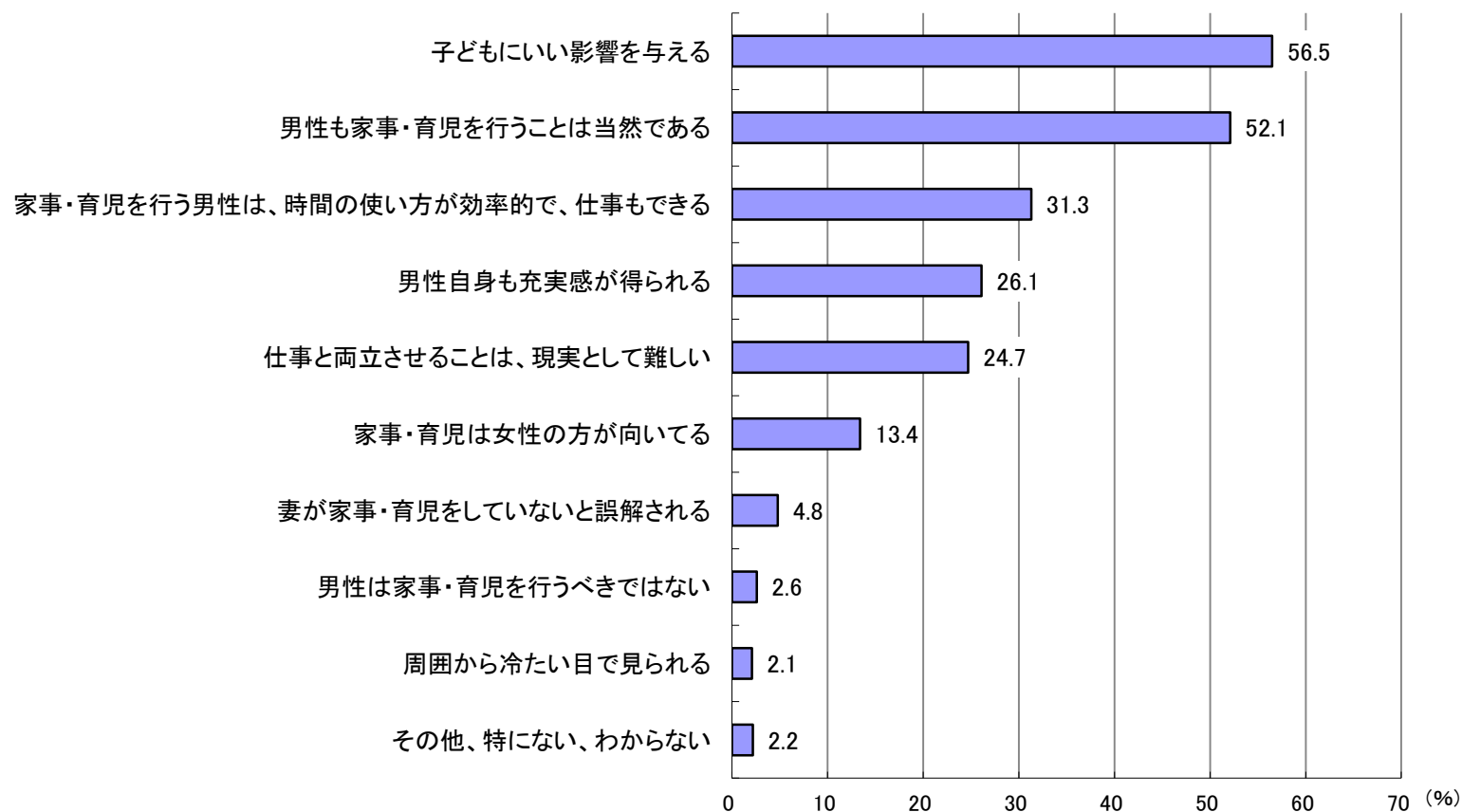
各分野において女性の参加が進んだ場合の影響については、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」との回答が65.0%と最も高くなっている(複数回答)。



資料：内閣府「女性の活躍に関する世論調査(2015)」による。

男性が家事・育児を行うことについてのイメージ(全国)

男性が家事・育児を行うことについては、「子どもにいい影響を与える」と答えた回答56.5%と最も高く、また「男性が家事・育児を行うことは当然である」と答えた割合も50%を超えている(複数回答)。

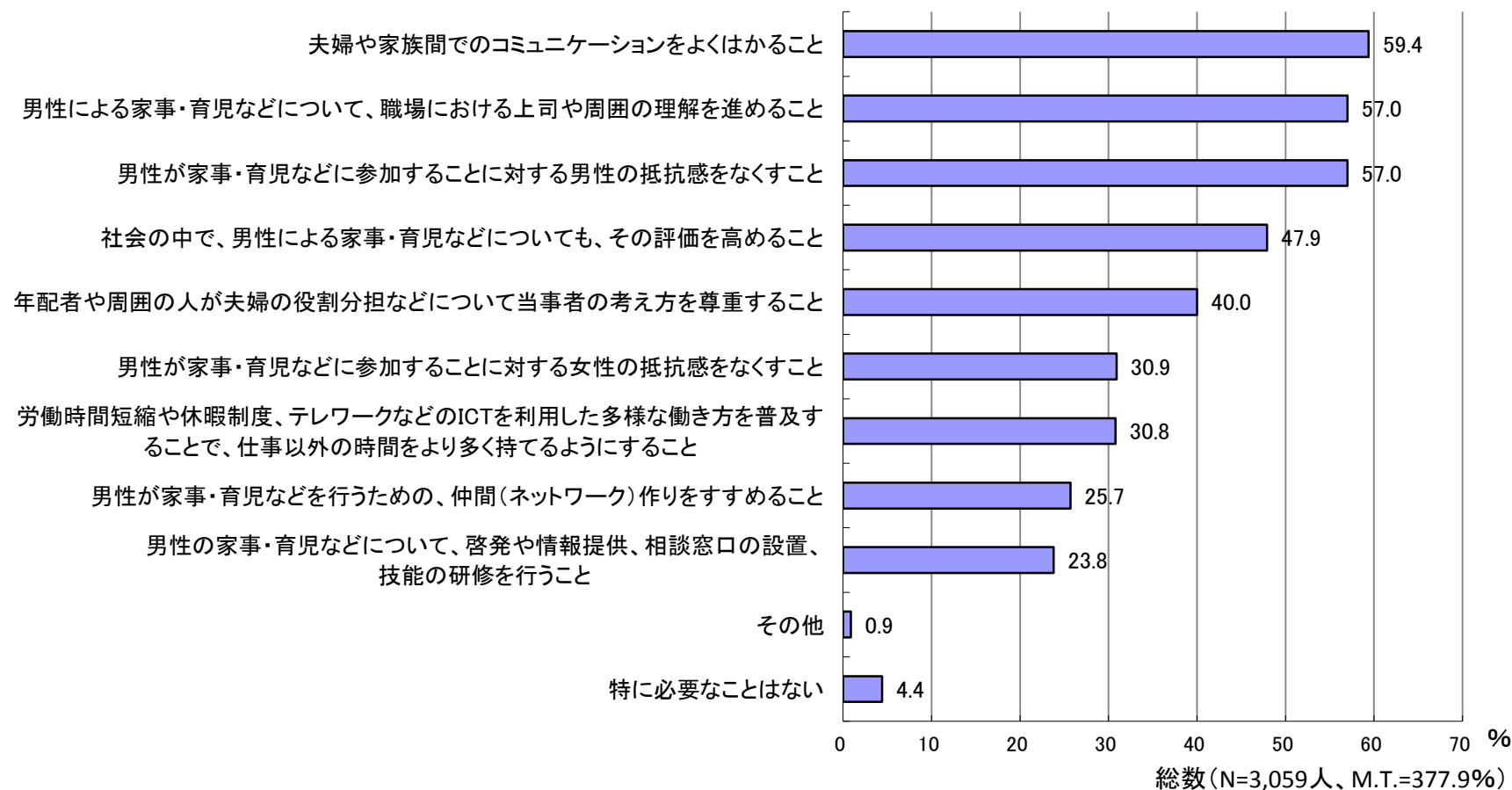


資料：内閣府「女性の活躍に関する世論調査(2015)」による。

総数(N=3,037人、M.T.=215.7%)

男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと(全国)

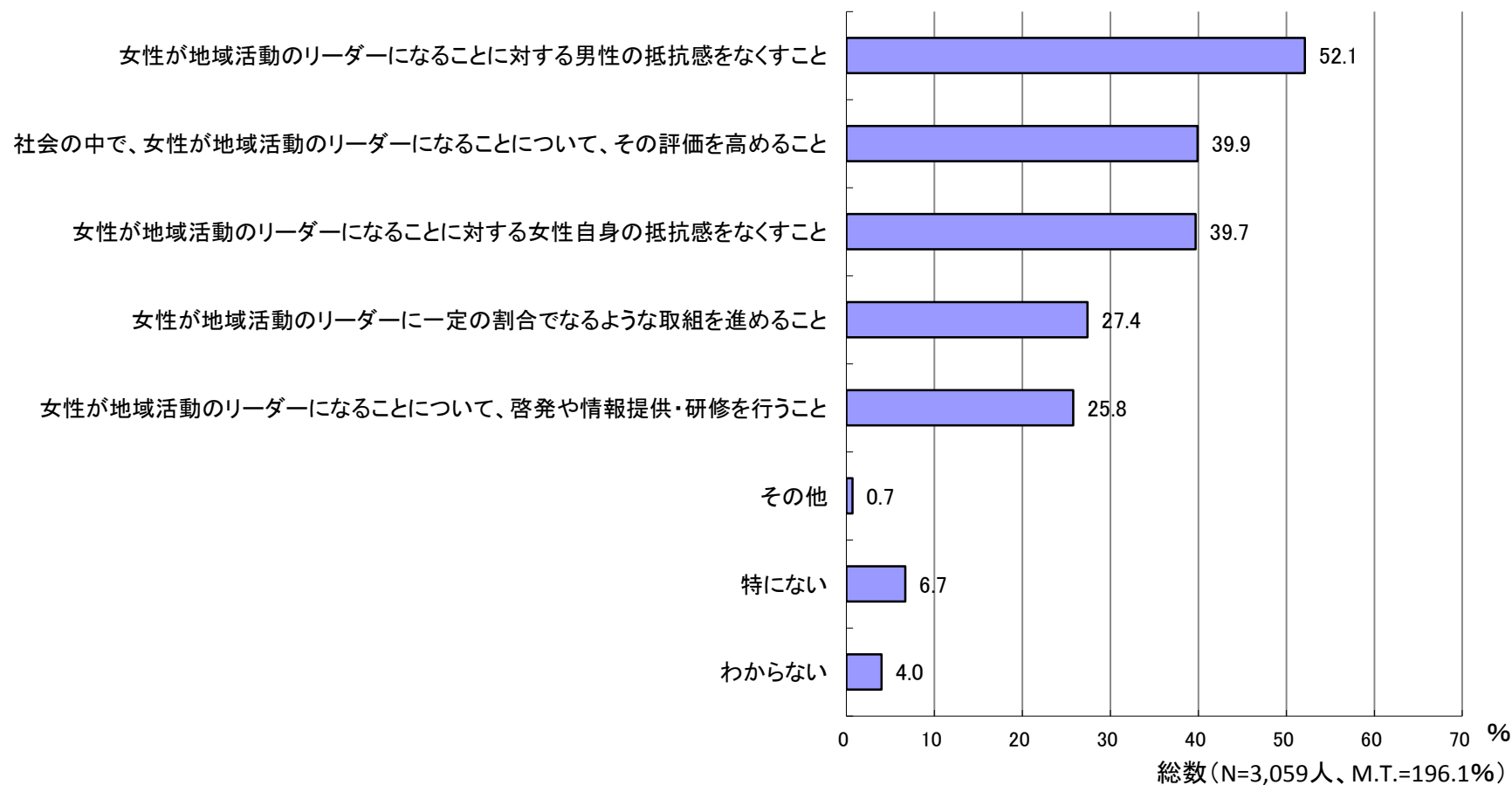
「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」との回答が最も高くなるとともに、「職場における上司や周囲の理解を進めること」「男性の抵抗感をなくすこと」も50%以上となっている(複数回答)。



資料：内閣府「男女共同参画に関する世論調査(2016)」による。

女性が地域活動のリーダーになるために必要なこと(全国)

「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」との回答が52.1%と最も高くなっている(複数回答)。



資料：内閣府「男女共同参画に関する世論調査(2016)」による。